

30年度における議会改革の検証

大牟田市議会基本条例

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、二元代表制の下、議事機関として、市民と共に考え行動する地方分権の時代にふさわしい議会のあるべき姿を念頭に置き、議会及び議員の活動原則等をはじめとする議会の基本となる事項を定めることにより、監視機能や政策形成機能を高め、市民の多様な声を市政に反映させるなど、議会機能の充実、強化を図り、もって市民の福祉の向上を図ることを基本とした豊かなまちづくりを目指すことを目的とする。

第1章の検証

- ・ 議会機能の充実、強化に向けて、様々な取り組みを行い、30年度も一定の前進ができたものとする。
一例としては、小中学校の特別教室等へのエアコン設置や、学童保育所・クラブの待機児童の解消に向けた取り組みについて、決算特別委員会の場で取り上げ、合意形成を図り、議会の総意として市長に要望したところである。その結果、小中学校の特別教室等へのエアコン設置については、来年度の予算化が一部実現したところであり、学童保育所・クラブの待機児童の解消に向けた取り組みについては、一定の前向きな回答を得たところである。こうした取り組みは、本条例に定める項目に則ったものであり、本条例の目的とする豊かなまちづくりを目指すための実践例としたい。
- ・ 予算特別委員会においては、市庁舎整備に関する事業費について、現市庁舎の取り扱いを含め、十分な市民理解を得ているとは言えず、またより具体的かつ客観性の高い調査・研究など、更なる検討が必要との判断から、31年度一般会計予算の修正案を提出し、可決するとともに、関係条例案も否決する重い対応を行った。
- ・ 27年度に設置した「まちづくり・活性化特別委員会」においては、委員間討議を中心に運営し、意見の集約を図り、本市議会の目指す「豊かさを実感できるまち」の実現のために、現状に対して何をすべきかを客観的な視点で捉えながら議論し、30年度も全委員の総意として取りまとめた意見・要望（8項目）を市長に提出したところである。また、医療及び子育て支援関係団体との意見交換も行った。
- ・ 27年度に市民アンケートを実施した結果、市議会の活動について「わからない」「知らない」などの回答が多く、市民周知に一層取り組む必要があることがわかった。この結果を受け、29年度に設置した「広報広聴委員会」をはじめ、議会機能を維持・向上しながらの息の長い取り組みが必要であり、今後も、議会の広報広聴機能を高め、議会への関心度合いの向上と、議会の活動状況等の「見える化」の推進に取り組むことが重要である。

第2章 議会及び議員の活動原則等

(議会の活動原則)

第2条 議会は、次の各号に掲げる原則に基づき活動するものとする。

- (1) 公正性及び透明性を確保し、市民に開かれた議会を目指すこと。
- (2) 行政の事務について、監視、評価を行うとともに、市民の意見の反映に努めること。
- (3) 本会議、委員会及び大牟田市議会会議規則（昭和38年議会規則第1号）で定める協議又は調整を行うための場（以下「会議等」という。）においては、市民に分りやすい運営に努めること。

(議会活動サイクル)

第3条 議会は、行政の事務のうち施策及び事務事業について、計画・実施・評価・改善という一連の過程の循環である行政マネジメントサイクルに応じて、市民の意見を踏まえ、時宜をとらえた適切な監視、成果の評価を行うとともに、その評価の結果について、決算における改善の検討につなげ、さらに次の予算にいかしていく、議会活動サイクルの確立に努めるものとする。

(議員の活動原則)

第4条 議員は、次の各号に掲げる原則に基づき活動するものとする。

- (1) 議会が言論の府であることを常に意識し、市政の発展のための論議を行うこと。
- (2) 市民の意見の聴取を積極的に行うとともに、政策、施策、計画及び事務事業並びに議案等（以下「政策等」という。）の課題を整理し、論点の明確化を図り、議会としての合意形成に努めること。
- (3) 常に自己研さんに努め、市民の福祉の向上を目指し活動すること。

(会派)

第5条 議員は、議会活動を行うため、会派を結成することができる。

- 2 会派は、政策を中心とした同一の理念を共有する議員で構成し、活動する。
- 3 会派は、政策等について、会派内での論議、会派間での意見の調整を行い、議会としての合意形成に努めるものとする。

(政務活動費)

第6条 会派又は議員は、市政に関する調査研究その他の活動に資するため、大牟田市議会政務活動費の交付に関する条例（平成13年条例第35号）により交付される政務活動費を効率的、効果的に活用しなければならない。

- 2 会派又は議員は、政務活動費を充てることができる経費の範囲を超えることなく、使途の公正性及び妥当性を確保しなければならない。
- 3 議会は、別に定める政務活動費の運用指針について、透明性を高め、市民理解の促進を図る観点から、見直しを適宜行うとともに、年度ごとに会派又は議員の収支報告書（大牟田市議会政務活動費の交付に関する条例第9条第1項に規定する収支報告書をいう。）を公表するものとする。

第2章の検証

- ・委員会等の開催日時や視察報告書をホームページにて公表するなど、市民に開かれた議会、市民にわかりやすい議会に向けての取り組みを継続中である。
- ・議会活動サイクル確立の観点から、決算特別委員会の開催時期を9月に見直しており、今年度も同特別委員会が出された意見・要望については、8月に開催した議会報告会で市民から出された意見・要望を踏まえながら合意形成を図り、全議員一致の意見集約ができた。

なお、小中学校の特別教室等へのエアコン設置や、学童保育所・クラブの待機児童の解消に向けた取り組みに係る意見・要望については、決算特別委員会の場で取り上げて議会の総意として合意形成を図り、市長に提出したところである。その結果、小中学校の特別教室等へのエアコン設置については、次年度の予算化が一部実現したところであり、学童保育所・クラブの待機児童の解消に向けた取り組みについては、一定の前向きな回答を得たところである。（第1章の一例の再掲）
- ・「政務活動費」については、「政務活動費の運用指針」を制定・公表し、この運用指針に基づいた支出となるよう、今年も各会派の経理責任者と事務局の協議の場を設けるなど用途の公正性及び妥当性の確保に努めている。また、用途の透明性の向上を図るため、30年度（29年度分）以降分からは、収支報告書に加え収支内容のわかる補助録と領収書をホームページで公表するとともに、議会事務局でも閲覧できることとしており、実行したところである。
- ・議会改革に関する先進自治体の取り組みについては、様々な先進事例の情報収集等に努め、30年度も先進自治体（兵庫県西脇市議会）を調査・視察し、今後の議会改革の参考としたところである。

第3章 会議運営の原則

(本会議)

第7条 本会議は、地方公共団体の最終的な意思を決定する場であり、議決の結果については議会として説明責任を持つものとする。

2 議員の質疑及び質問は、市民に分かりやすくする観点から、一問一答方式、再質問からの一問一答方式のいずれかを選択して行うものとする。

3 市長その他の執行機関及び補助機関である職員（以下「市長等」という。）は、議員の質疑及び質問について、論点を明確にするため、又は趣旨を確認するため、議長の許可を得て、議員に質問することができる。

(委員会)

第8条 委員会は、専門的に調査及び審査（以下「審査等」という。）を行う機関として、自主的かつ積極的な運営に努めるとともに、審査等に当たっては、委員相互間の論議を行い、委員会としての合意形成に努めるとともに、必要に応じて、市長等に対して要望及び提案を行うものとする。

2 委員会は、複数の委員会の所管事項にかかわる政策等について、必要に応じて、連合審査会を開催するものとする。

3 委員会は、必要に応じて、地方自治法（昭和22年法律第67号）第109条第5項に規定する公聴会制度及び同条第6項に規定する参考人制度を活用するとともに、所管事項に係る団体等からの意見の聴取を行うものとする。

4 委員会は、議会の議決により、地方自治法第100条の2に規定する専門的知見を活用するものとする。

5 市長等は、委員の質疑及び質問について、論点を明確にするため、又は趣旨を確認するため、委員長の許可を得て、委員に質問することができる。

(政策等調整委員会)

第9条 議会は、複数の委員会の所管事項にかかわる政策等又は特に重要と判断する政策等について、意見を調整するため、必要に応じて、政策等調整委員会を設置することができる。

2 政策等調整委員会は、委員相互間の論議を行い、政策等の課題を集約し、論点を明確にするるとともに、議会としての意見の調整に努めるものとする。

3 政策等調整委員会における意見の調整の結果は、必要に応じて、所管する委員会において審査等を行い、又は議長により市長等に対して要望及び提案を行うものとする。

4 政策等調整委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(全員協議会)

第10条 議会は、行政全般に関わる政策等について協議するため、必要に応じて、全員協議会を設置することができる。

2 全員協議会において出された課題については、会派内での論議、会派間での意見の調整を行うとともに、必要に応じて、委員会又は政策等調整委員会において、審査等又は意見の調整を行うものとする。

3 全員協議会に関し必要な事項は、別に定める。

(会議の公開)

第11条 議会は、会議等を原則として公開する。

第3章の検証

- ・ 26年度中に放送設備等の更新を行い、質問中の議員名が議場に表示できるようにした。また、映像配信では、議員名と合わせ答弁者の役職と氏名も示しているほか、質問者席を独立化させて、市民へのわかりやすさの向上に努めている。
- ・ 本会議では、発言通告の内容を市民にわかりやすく通告書に記載するよう心掛けた。また、市民へのわかりやすさや質問の内容に応じて、一問一答か再質問からの一問一答かを選択しており、こうした方法が定着している。
- ・ 委員会では、市当局の理解・協力もあり、委員会開催の2日前までには資料配付がされており、事前の熟読が可能となっている。
- ・ 委員会が長時間に及ぶこともあり、十分な審査時間を確保する意味でも、開催回数の増や議題の分散などを行った。また、総務委員会においては、委員会の申し出による当局との勉強会や委員間討議を積極的に行った。
- ・ 30年度も、新たな総合計画に係るアクションプログラムについて、まちづくり・活性化特別委員会において、委員間討議を中心に論議しながら、新年度の事業等に反映すべき事項として意見を集約し、合意形成も図ることができた。
- ・ そのほか30年度に開催した第1回全員協議会においては、大牟田市保健所の設置主体の変更等に係る基本方針について、保健所に関する業務は、市民を初め関係機関や団体など多岐にわたり、今後の市民生活はもとより本市の行財政運営に及ぶなど、行政全般に大きく関係することから、今後の協議の過程から情報交換や意見交換などの実施、市民や関係者への利便性の低下への懸念、市民の健康危機管理体制の強化に対する実現可能性、市民や関係者への説明責任と幅広い意見聴取などの観点で議論を交わした。

また、第2回全員協議会では、まちづくり総合プランの実施計画となるアクションプログラムの取りまとめられた改正案公共施設の利活用に関する方針の更新内容について、及び大牟田市庁舎整備に関する基本方針案についての3点に関して開催した。これらの議題は、いずれも今後のまちづくりに大きく関与することから、現状把握とともに状況変化にも柔軟に対応していくために議論を交わし理解を深めることができた。

その後、大牟田市保健所の設置主体の変更等に係る意見書を可決し、市議会として国・県等関係機関に要望等も行った。

第4章 市民との関係

(市民の意見の聴取)

第12条 議会は、市民の意見を聴取し、議会活動を報告するため、地域に出向き、定期的に議会報告会を実施するものとする。

2 議会報告会で聴取した市民の意見は、所管する委員会において審査等を行うものとし、審査等の結果、具体的な対応が必要と認められる意見については、委員会として市長等に要望及び提案を行うとともに、審査等の結果は、市民に公表及び報告を行うものとする。

3 議会報告会に関し必要な事項は、別に定める。

(請願者及び陳情者の意見の聴取)

第13条 議会は、市民から出された請願及び陳情を市民による政策の提案と位置付け、必要に応じて、請願者及び陳情者の意見を聴取する機会を設けるものとする。

2 前項に規定する意見を聴取する機会に関し必要な事項は、別に定める。

(広報広聴活動)

第14条 議会は、開かれた議会づくりを推進するため、積極的な広報広聴活動に努めるものとする。

第4章の検証

- ・30年度も、校区まちづくり協議会などの地域会議の場へ事前協議に出向き、議会報告会の趣旨説明などに取り組んだ。
- ・議会報告会で出された意見・要望、9月議会の質疑質問や決算特別委員会、まちづくり・活性化特別委員会で議論された意見・要望の中から、保健所の設置主体の変更、小中学校の特別教室等へのエアコン設置、病後児保育事業、学童保育所・クラブの充実、様々な課題を抱える子供たちへの支援、三池港、地域包括支援センター、地域公共交通網形成計画、平日時間外小児急患診療、市庁舎整備の10項目を11月に議会の総意として合意形成を図り、市長に提出し回答を求め、2月に市長より回答をうけた。
- ・委員会での陳情者の意見陳述を実施し、市民意見の聴取に取り組んだ。
- ・議会だよりについてはオールカラー化を図っており、広報広聴委員会を中心に、市民が読みやすい紙面となるよう努めた。また、コミュニティFMラジオ局のFMたんと番組にも議員が直接出演し広報活動を行った。
- ・議会報告会の運営自体は円滑に行えており、参加者は年度によって増減はあるものの、増加傾向となっている。しかしながら参加者が多いとは言えず、また、30年度の参加者の年齢層も偏っており、こうした点の対策が課題といえる。しかし、その様な中、アンケートによると「はじめて参加」された方が55名であったことは、今後も参加者に対して周知の継続は必要である。

第4章の検証

- ・ 議会報告会の参加者増加への対応として、27年度からは、小・中学生を通じて保護者への議会報告会のチラシの配布を行い、28年度からは、コミュニティFMラジオ局のFMたんによる周知（30年度は番組出演を2回実施）、また29年度からは、市民課と保険年金課（計4カ所）に設置されている広告モニターにて開催案内を行っており、30年度及び前年度の参加人数を1名上回った結果となった。
- ・ 30年度は、市議会の広報広聴活動の一環として、本市におけるインターンシッププログラムにより、7月に高校生1名を受け入れた。市議会の概要や視察対応の模様、議員へのインタビューとフリートークなど、1日の研修を実施した。
- ・ 市制100周年事業を契機にスタートした第2回のFMたん42.195kmリレーマラソンへ議員と事務局で構成するチームとして参加するなど、市民との交流の場のきっかけづくりとして積極的に取り組んだ。

第5章 市長等との関係

（資料の請求）

- 第15条 議会は、政策等について十分に論議するため、市長等に対して、総合計画との関係、目的、財源、成果指標と目標値、効果などについて、資料を請求するものとする。
- 2 議会は、予算及び決算の審議に当たっては、重点的な施策及び事務事業について、前項の規定による請求に準じて、資料を請求するものとする。
- 3 前2項に規定する資料の様式は、別に定める。

（議決事件の追加）

- 第16条 議会は、地方公共団体に関する事件について、議会として市政への責任を果たす観点から、その重要性を十分に検討した上で、地方自治法第96条第2項の規定による議会の議決すべきものに追加するものとする。
- 2 前項に規定する議会の議決すべきものは、別に条例で定める。

第5章の検証

- ・ 新たな総合計画に掲げる施策を実現するために実施する事務事業の事業計画や財政計画についてまとめたアクションプログラムについて、毎年の予算編成に合わせてローリング（見直し）が行われており、30年度についても改訂案が提出されるなど十分に論議可能な資料の提出がされた。
- ・ また、総務委員会において、委員会の総意として行政評価の改善に関する申し入れが行われ、対外的・客観的な検証結果としてもその精度・熟度は重要であるとの観点から、評価の明瞭化、検証分析に係るデータの充実、次年度に係る方向性の明示など、当局の見直しと合わせて資料（施策・事業に係る評価・検証シート）への反映を要望した。

第6章 議会の体制整備

(議会研修会)

第17条 議会は、議員の監視能力及び政策形成能力の向上を図るため、必要に応じて、議会としての研修会を実施するものとする。

(議会事務局)

第18条 議会は、議会運営及び政策形成機能の支援を向上させるため、調査及び法制機能などの議会事務局の体制の整備に努めるものとする。

(議会図書室)

第19条 議会は、議員の監視能力及び政策形成能力の向上に資するため、議会図書室の充実に努めるものとする。

第6章の検証

- ・30年度の議会研修会は、前新潟県長岡市市長の森民夫氏を招いて、地域発の生きた政策を生み出すため条件として地域の特性を生かすことや、国・県・市などの縦割り横割りの隙間を埋めること、行政と市民の協働を最大限に生かすことなどの実例を交えながら、「地域発の生きた政策～アオーレ長岡を中心として」と題する研修会を開催し、議員の理解を深める契機とするとともに資質向上に取り組んだ。
- ・議会事務局については、職員の研修会への参加など、その資質向上に取り組んだ。
- ・議会図書室については、30年度において蔵書整理を完了し、その後の充実のために、設置場所の検討などが課題である。一方で、議員多目的室に新聞、新著や行政視察に係る報告資料を置くなど、図書利用の向上に努めている。

第7章 政治倫理、議員定数及び議員報酬

(政治倫理)

第20条 議員は、大牟田市政治倫理条例（平成14年条例第21号）を遵守し、常に市民全体の奉仕者としての自覚を持ち、職務を行わなければならない。

(議員定数)

第21条 議員定数は、この条例に定める議会の活動原則を實踐し、多様で充実した審議ができる議員数とする。

2 前項の議員定数は、人口及び類似市の状況並びに市政の状況及び将来展望を考慮して、検討を行うものとする。

(議員報酬)

第22条 議員報酬は、大牟田市特別職報酬等審議会条例（昭和39年条例第37号）第1条に規定する第三者機関である大牟田市特別職報酬等審議会の答申を尊重し、答申された本来あるべき議員報酬の額を基本とする。

2 議員報酬の額から減額する特例措置は、必要があると認められる場合、議会自らの判断により決定するものとする。

第7章の検証

- ・改選の時期に当たった27年度には、全議員を対象に大牟田市政治倫理条例の周知を図るとともに、1期目の議員には政治倫理や公職選挙法に関する研修会を開催するなどして、公職にある議員としての倫理の確立に努めた。
- ・議員定数については、30年度の9月議会で議員提案による改正条例案を可決し、31年度の統一地方選挙から1名を減じ、24名とした。
- ・議員報酬については、平成30年度9月議会で、議員提案による大牟田市議会議員の議員報酬等の特例に関する条例を全て全会一致で可決し、公務上の災害を除き病気やケガなどで、年4回ある定例会を連続して2回欠席し、その間に開催される委員会や協議会等を全て欠席すると、翌月以降の報酬が支給されないこと（復帰の場合は会議等に出席した月より支給）。また、刑事事件で逮捕、勾留された場合も日割り計算で支給停止、後に有罪となれば不支給となることなどを議員自ら率先して定めた。
- ・平成30年度は、当初、公務を無断で欠席し、その後に病気療養中であった議員が任期途中で辞職した。市議会としても議員としての健康管理に留意しながら職責を全うすることが改めて重要と考える。

第8章 最高規範性その他の条例との関係及び見直し手続等

(最高規範性その他の条例との関係及び見直し手続等)

第23条 この条例は、議会における最高規範であり、議会は、議会に関する他の条例を制定し、又は改廃するときは、この条例の趣旨及び規定に反しないよう整合を図らなければならない。

2 議会は、この条例の施行後、目的の達成について検証を行うとともに、市民の意見及び社会情勢の変化等に応じて、不断の検討を行い見直すものとする。

3 議会は、この条例の理念を議員が共有するために、研修の実施に努めるものとする。

第8章の検証

- ・ 議会改革については、一步一步取り組んでおり、一定の成果が上がっているものと考えており、現時点で議会基本条例の改正は必要ないものとする。
- ・ 議会改革特別委員会においては、平成27年度に実施した市議会に関するアンケートなどの結果を踏まえ、今後のあり方について検討を行ってきた。
同特別委員会としての常設・常態化の回避、これまでの成果による所期の目的の達成度及び議会が今後目指すべき姿へ向けた体制整備などの観点から、同特別委員会の今後の方向性については、引き続き議会改革、活性化及び広報・広聴機能をより一層高めることを目的として、同特別委員会の発展的解消を行い、29年度議会構成の変更に合わせて、委員会構成も再編して取り組むこととしたところである。
- ・ 29年度より広報広聴機能を「広報広聴委員会」、議会改革・活性化機能を「議会運営委員会」に移行して取り組む中、早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革度調査2017ランキングでは全国で70位（1,447調査回答議会中）、また、日経グローバル・全国市区議会議会改革度ランキングでは、51位（813市区議会中）となっており、一定の評価をいただいた一つの表れだとする。引き続き、市民からの評価にもつながるよう鋭意取り組むこととしている。